

猫の本

The Cat Book

【改訂版】

世界の猫

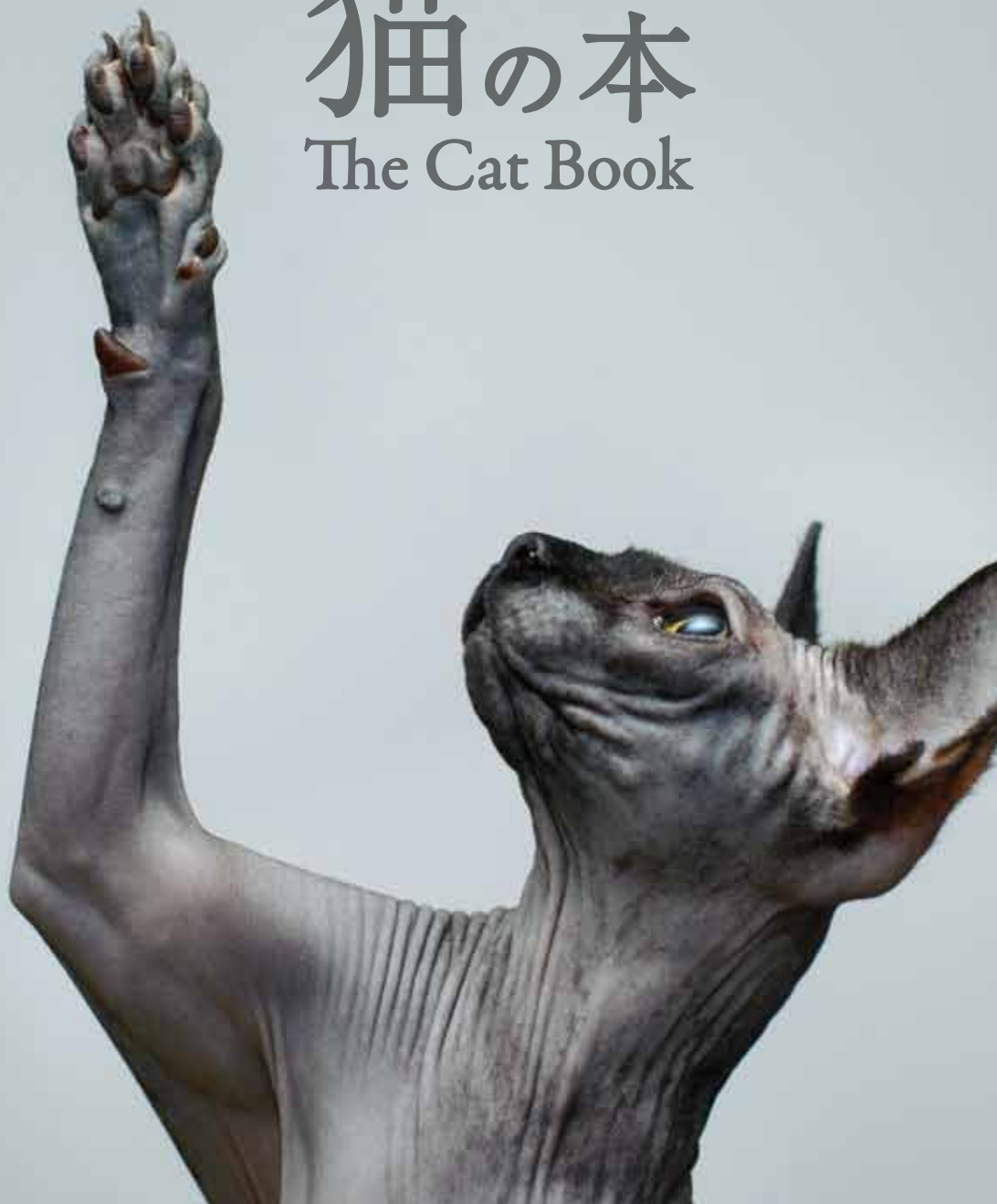
48

種類

猫って美しい。

猫の本

The Cat Book





ネコについての基礎知識

ネコの歴史

🐾 ネコの起源

6500万～4800万年前、体長30cm、細身の体、短い足、四肢には5本の指と引き込みができるかぎ爪、そして長い尾を持つ「ミアキス」というイタチに似た動物がいた。このミアキスが、ネコ目の直接の祖先か、この動物の近縁種がネコ目の先祖だったのではないかと推測されている。

ミアキスは樹上性の動物で、鳥類、昆虫、げっ歯類などの小動物を捕食していたらしい。当時の北アメリカやアフリカ(当時はひとつの大陸)の地上では、「肉齒目にくしもく」という捕食動物が繁栄しており、ミアキスは地上への進出を果たせていなかった。ネコ科動物が現れるのは4000万年前頃で、同じ頃にイヌ科動物も現れている。森林での生活に特化したのがネコ科で、草原に進出したのがイヌ科だ。イエネコの直接的な祖先については、ミトコンドリアDNAの分析により、およそ13万年前の中東の乾燥地帯に生息していたリビヤヤマネコが祖先だとされている。

ネコと人間は、人間が狩猟採集を主な食物獲得手段としていた時代においては競合関係にあったが、人間が農耕を始めると、ネズミなどから穀物を守る存在となり、共生の関係に変化した。最初の飼育の記録は9500年前のキプロス島で発見されているが、継続的に飼育されていたかは不明だ。ただし、5000年前のエジプトでは継続的な家畜化が行われており、これが現在のイエネコの直接的な起源だと推測されている。



リビヤヤマネコ。

🐾 ネコの仲間

ネコ目(食肉目)の動物は、多様性に富んだ捕食動物の一大グループだ。肉球を持つすべての動物がネコ目に分類され、アシカ、セイウチ、アザラシなどの^{きまぐろい}鯨脚類もネコ目に分類されるほか、イヌ、クマ(ジャイアントパンダを含む)、イタチ、レッサーパンダもネコ目に属している。つまり、我が家のタマ(ネコ)とポチ(イヌ)は、分類学上は親戚ということになるのだ。

そして、ネコ目ネコ亜目ネコ科は、18属38種が存在する(亜種、変種、品種は含まず)。ヒョウ属には、ライオン、トラ、ヒョウ、ジャガー、ユキヒョウといった大型種が多く、ネコ属は比較的小型が多い。イエネコは、このネコ属のヤマネコ種に含まれる。種としてのイエネコはヤマネコなのだ。なお、似た種名にベンガルヤマネコとオオヤマネコがあるが、ヤマネコやイエネコとは属レベルで異なる動物だ。

鯨脚類を除く、ネコ目動物の最大の身体的特徴は、プニプニの肉球。肉球は高所から飛び降りる際は衝撃を吸収し、獲物に忍び寄る際は足音を消し、岩場では滑り止めになるなど、優れた機能を有している。ネコ目動物にとって肉球とは、牙や爪よりも重要な武器といえるのだ。

🐾 日本列島にネコがやって来た！

縄文時代以前、日本列島にヤマネコまたはイエネコはいなかったようだが、オオヤマネコはいたらしい。日本にはイリオモテヤマネコとツシマヤマネコの2種の野生ネコ科動物が生息するが、どちらもベンガルヤマネコ属に分類される。

文献上で日本にネコが登場するのは、9世紀後半の平安時代のことだ。以後、「枕草子」や「源氏物語」などにもネコの記述が現れており、鎌倉時代になると、珍しい動物ではなくなっていたようだ。また、大陸との交易が盛んな時代においては、人間が意図的に連れて来たり、交易船に紛れ込んで上陸したりと、移入経路はいろいろとあったらしい。どちらにしても、ネコは本来日本にはいない動物だった。直接的、または間接的に人間が介在して、ネコは日本にやって来たのだ。

ネコの血統登録機関

ネコの品種を分類し、純血品種として認められるには、血統登録機関に登録する必要がある。こうした機関は国内外を問わず全世界に多数存在しており、それぞれの団体が設けた基準を満たせば、血統書が発行されるのだ。しかし、キャットショーなどに出る場合、日本の血統書では世界で通用しない場合がある。そこで、数ある機関のなかでも最も正式で権威があるとされているのが、以下の3機関だ。

- CFA(The Cat Fanciers' Association)／アメリカ
- TICA(The International Cat Association)／アメリカ
- FIFe(Fédération Internationale Féline)／スウェーデン

*ネコの品種に関しては、定まった分類があるわけではなく、血統書を発行する各団体によって判断が異なります。

ネコの体

目

顔の大きさの割に非常に大きな目。赤と緑の識別ができないと考えられている。夜行性の動物に多く見られる、縦に細長い瞳孔を持っている。

鼻

ヒトの数万～数十万倍の嗅覚を持つが、イヌのように狩りに使うわけではなく、食物の鮮度や縄張りの確認に使う。

口元(マズル)

舌

表面にかぎ状の突起がありザラザラしている。食事や毛づくろい、水を飲む際に役立つ。

指・爪

指は通常前足が5本、後足が4本だが、指が多い「多指症」の個体もよくいる。爪は自由に出し入れでき、爪とぎをする習性がある。

尾

感情を表すほか、走る際や跳躍・着地の際に体のバランスを取る。

耳

ネコの五感で最も優れている。片方ずつ別々に動かし、異なる方向の音を聞き分けられる。

ひげ

非常に鋭敏で、先端に何かが少し触れても感じ取れるなど、感覚器として重要な役割を果たしている。品種や個体により数が異なる。

ボウ(足先、肉球)

🐾 ハンターとして特化した体

ネコの体はネコ科動物のなかでも小さい部類に入り、体重は2.5～7.5kg、体長(頭胴長)は19～75cm程度である。ほかのネコ科動物と同様に樹上性の傾向が強いため、家の中でも高い場所を好むほか、優れた平衡感覚や柔軟性、高い瞬発力、鋭いかぎ爪や牙など、ハンターとしての身体的特徴を備えている。また、足音が非常に小さく、体臭が少ないことも獲物に気付かれられないための工夫といえる。

🐾 年齢と寿命

ネコの寿命は10～16年といわれているが、野良ネコでは4～6年、ペットとして屋内で飼われているネコは14～18年と、環境によって大きな差がある。一般的には生後約1年で生殖が可能な成猫となり、7歳くらいになると高齢期を迎える。なお、歴代最高齢のネコとしてギネスブックに記録されているのは、アメリカ・テキサス州に暮らしていた「クリーム・パフ(Cream Puff)」(1967～2005)という名前のネコ。その年齢はなんと38歳と3日で、ヒトに換算すると約168歳に相当する長寿のネコだった。

ネコの年齢	6カ月	1歳	3歳	6歳	8歳	9歳	10歳	13歳	16歳	20歳
ヒトの年齢	14歳	16歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	90歳



🐾 ボディタイプ(体格・体型)

ネコの体は、骨格や筋肉の付き方、足の長さなどによっていくつかの種類に分類される。ベルシャに代表される「コビー」は、短い胴にがっしりとした肩や腰、やや短めの尾を持ち、シャムに代表される「オリエンタル」は、逆三角形の顔に長い四肢、^{むち}鞭のような尾を持つ。この2種をさらに分割したものが、「セミコビー」、「セミフォーリン」、「フォーリン」と呼ばれるタイプである。そして、これら5種類のほかに、長くがっしりとした体格の「ロング&サブスタンシャル」を加えた6種類が、現在の基本的なボディタイプの区分となっている。

ボディタイプ	特徴	代表的な品種
オリエンタル  オリエンタル ショートヘア	コビーの対極とされ、6種類のなかで最もスレンダーで小柄な体型。首や四肢が長く、筋肉質な体つきで、くさび形の小さな顔や、鞭のように細長い尾が特徴。	オリエンタルショートヘア、シャム、バリニーズ、コーニッシュレックス など
フォーリン  アビシニアン	比較的スレンダーで筋肉質。オリエンタルほど細くなく、コビーほど丸くない、中肉中背タイプ。	アビシニアン、ソマリ、ロシアンブルー、ターキッシュアンゴラ、ジャパニーズボブテイル など
セミフォーリン  エジプシャンマウ	オリエンタルとコビーの中間に位置する。フォーリンよりも四肢が短く、やや小さめ。筋肉が発達していて肉付きが良い。丸いくさび形の顔が特徴。	エジプシャンマウ、トンキニーズ、アメリカンカーネル、デボンレックス、オシキヤット、マンチカン、スフィンクス など
セミコビー  ブリティッシュ ショートヘア	コビーより四肢や胴、尾が少し長く、重心はそれほど低くない。筋肉質で顔が大きく、貫禄のある風貌をしている。	アメリカンショートヘア、ブリティッシュショートヘア、クリリアンボブテイル、スコティッシュフォールド、シンガプーラ など
コビー  ベルシャ	四肢や胴が短く、重心が低い。丸い頭部や短めの尾、丸みのあるボウ(足先)など、全体的に丸みを帯びている。横幅があり筋肉質で、どっしりとした体型。	ベルシャ、ヒマラヤン、エキゾチックショートヘア、パーミーズ など
ロング&サブスタンシャル  メインクーン	大型で胴体が長く、筋肉質な体型。ほかのボディタイプと比較しても大型の体型で、寒さの厳しい北国の環境に適応した品種が多い。	ノルウェーヤンフォレストキヤット、メインクーン、サイベリアン、バーマン、ラグドール など

目の色

ネコの目の色(虹彩の色)は、色の濃淡などの違いはあるものの、大きく分けてカップー(銅色)、ヘーゼル(薄茶色)、グリーン(緑)、ブルー(青)の4種類に分類される。このほかに、特殊な例として、メラニン色素を生み出せない突然変異種「アルビノ」に見られるレッド(赤)、左右の色が異なる「オッドアイ」などがある。また、生まれて間もない子ネコは虹彩に色素が沈着していないため、品種にかかわらず青目に見えることが多く、これを「キトゥン・ブルー(子ネコの青)」と呼ぶ。

グリーン	ヘーゼル	ゴールド	イエロー	アンバー	カップー	ブルー	オッドアイ
							

被毛の種類と色

🐾 被毛の長さ












































ネコは被毛の長さによって、「短毛種」、「長毛種」、「無毛種」の3種類に分類される。

短い ←			長い →
無毛種	短毛種	長毛種	
 スフィンクス	 アビシニアン	 ペルシャ	
 バンビーノ	 シャム	 メインクーン	
 ピーターボールド	 ブリティッシュショートヘア	 ラグドール	



🐾 被毛の色とパターン

ネコの被毛は、品種や個体ごとに多種多様な毛色や毛質、パターン（模様）がある。こうした違いは、両親から受け継いだ毛色を決定する遺伝子の組み合わせによって生じると考えられているが、詳しい理由は明らかになっていない。被毛全体に現れる基本となる色はベースカラーといい、「ホワイト（白）」、「ブラック（黒）」、「チョコレート（茶）」、「シナモン（薄茶）」、「レッド（赤茶）」のほか、毛の色が薄くなる突然変異「ダイリュート」などがある。そして、このベースカラーに加え、赤系統の被毛が散らばったように配色された「トータスシェル（トーティ）」（日本ではサビネコとも呼ばれる）、被毛にさまざまな色が入り縞模様になっている「タビー（縞柄）」、耳、顔、四肢の先端、尾の毛色だけが濃い「ポイントカラー」、体の一部にのみ白い被毛が入った「ホワイトスポット」、ベースカラーの下にシルバーまたはゴールドの毛色が混じった「ティッピング」など、さまざまなパターンが存在する。

	ホワイト	ブラック	チョコレート	シナモン	レッド		
ベースカラー	 ホワイト	 ブラック  ブルー  ブルーキヤラメル	 チョコレート  ライラック  ライラックキヤラメル	 シナモン  フォーン  フォーンキヤラメル	 オレンジ  クリーム  アプリコット		
トータスシェル		 ブラックトーティ  ブルートーティ  ブルーキヤラメルトーティ	 チョコトーティ  ライラックトーティ  ライラックキヤラメルトーティ	 シナモントーティ  フォーントーティ  フォーンキヤラメルトーティ			
タビー	 マックレルタビー	 クラシックタビー	 スポットタビー	 ティックタビー	 アグーティ（濃い部分が不明瞭）		
ポイントカラー		 ヒマラヤン	 ミンク	 セビア			
ホワイトスポット	 ミトン	 タキシード	 マスク&マントル	 キャップ&サドル	 マグビー	 ハーレクイン	 パンパターン
ティッピング	シルバー	 シルバーチンチラ	 シルバーシェード	 シルバースモーク			
	ゴールド	 ゴールデンチンチラ	 ゴールデンシェード	 ゴールデンスモーク			

Abyssinian

アビシニアン

19世紀にイギリスで生まれたとされ、1896年に血統登録団体に登録されたアビシニアン。しかしその起源については、エジプトに生息していた野生のリビアヤマネコを飼いならしたものとする説や、1868年のイギリス・アビシニア（現エチオピア）戦争時に、イギリス兵がエジプト・アレクサンドリアの港にいた「ズーラ」という名前の雌ネコをイギリスに連れ帰り、縞ネコと掛け合わせて作出したとする説などがあり、真相は分かっていない。

特徴は、しなやかで筋肉質な体、丸

みのあるV字形の頭部、大きなアーモンド形の目、大きな耳など。特に鳴き声の美しさで知られ、「鈴を転がすよう」と形容される。なかでも最大の特徴は、「ティックドタビー」と呼ばれる模様。アビシニアンの毛は、1本1本に濃淡の縞模様があり、それが光の加減によってキラキラと輝いて、まるで織物のように見えるのだ。ティックドタビーは、古代エジプトの壁画などに描かれたネコの毛色によく似ており、この毛色を生み出す突然変異はかなり古い時期に発生したと考えられている。

原産国 エジプト、イギリス

誕生年 19世紀

体重 2.5~4.5kg

ボディタイプ フォーリン

毛の種類 中くらいの短毛種

毛の色 ルディ（深みのある茶色）、レッド（シモン）、ブルー、フォーン、シルバー

目の色 ゴールド、グリーン、ヘーゼル



しなやかな体つきのアビシニアン。

Character

動作は俊敏だが、大きな声で鳴くようなことはあまりないほか、飼い主に従順で生活環境への順応性も高いため、「最高のマンション・キャット」とも呼ばれている。



頬から目尻にかけて見られる縞模様は、古代エジプトの女王クレオパトラになぞらえて「クレオパトラ・ライン」と呼ばれる。



【上】珍しいシルバーカラーのアビシニアン。【下】大きな耳が愛らしい、アビシニアンの子ネコ。子ネコは寒さにやや弱いため、冬場は毛布などを用意して保温してあげるとよい。



ネコのしぐさの意味 Part 1

🐾 眠る



「ネコ」の語源が「寝子」であるように、ネコは1日の大半を寝て過ごす。これはネコ科動物や肉食動物に共通する傾向で、草食動物に比べて食物を得る機会が少ない反面、一度高カロリーな食物を得るとしばらく食べる必要がないため、寝ることでカロリーの消費を抑えていると考えられる。特に、餌も十分にあり安全な環境で暮らす飼いネコは、長いときには1日20時間も眠るといわれ、その間には夢も見ているという。

🐾 爪をとぐ



ネコに限らず、狩りをする動物の多くが行う爪とぎ。古い爪をといで鋭くし、いつでも狩りに使えるようにしておく手入れの意味があるほか、ほかのネコに対して縄張りを主張する意味がある。野良ネコなど屋外で暮らすネコの場合は太い木の幹などで行うが、飼いネコの場合は壁や柱を使って爪をとぐため、家や家具が傷付かないよう専用の爪とぎを用意し、その場所で爪をとぐように教えてあげるとよい。

🐾 毛づくろいする



ネコは常に全身をくまなく毛づくろいを行う。その理由には、「ゴミを取り除き毛の根元の感覚を鋭敏に保つ」、「体温調整」、「消臭」、「皮膚炎予防」、「リラックス」、「皮膚の血流促進」、「静電気除去」など、諸説ある。また、ネコの舌には小さな突起がびっしりと生えており、ブラシのような構造になっている。この舌で抜け毛やゴミを絡め取って飲み込み、それを「毛玉」として吐き出す習性がある。

🐾 尾の動き



【垂直に立てる】…うれしいときや甘えているときなど、比較的機嫌が良いとき。【横に振る】…不快なときに速く大きく振るほか、リラックスしているときもゆっくり大きく振ることがある。【後肢の間に巻き込む】…おびえているとき。【だらりと下げる】…体の具合が悪いときや元気がないとき。【大きく膨らませる】…威嚇しているときか、驚いたとき。【ほかのネコや人間に巻き付ける】…相手に親愛の情を持っている。

American Curl

アメリカーカール

外 向きにカールした耳が特徴的なアメリカンカール。その歴史は1981年、アメリカ・カリフォルニア州レイクウッドに暮らすルーガ夫妻の家に、耳の軟骨部分が後ろ向きにカールした2匹の不思議な子ネコが迷い込んだことに始まる。

2匹のうち1匹は事故で死んでしまったが、夫妻はもう1匹の雌ネコに「シュラミス」と名付けた。やがて成長したシュラミスが4匹の子ネコを産むと、2匹がシュラミスと同じカール耳を持っていたのだ。この子ネコたちを基礎と

して品種の固定と改良が行われ、新しい品種として認められることとなった。

その特徴的な耳は突然変異によるものと考えられており、アメリカンカールから生まれる子ネコの約半数にこの特徴が現れる。なお、生まれたばかりの状態では普通のネコと同じ真っすぐな耳だが、生後2~10日ほどで耳に軟骨が入り、先端がカールし始めるという。また、カールした耳以外にも、シルクのような手触りの被毛や肩まで届く長い尾、アーモンド形の大きな目も魅力となっている。

原産国 アメリカ

誕生年 1981年

体重 3.0~6.5kg

ボディタイプ セミフォーリン

毛の種類 長毛種・短毛種

毛の色 すべての色

目の色 すべての色(ポイントカラーの場合はブルー)

アメリカンカールの親子。



Character

愛敬たっぷりでおとなしく、賢いためしつけもしやすい。また、イタズラをすることも少ないので、一人暮らしの人でも安心して留守番させられる。